

「広島大学旧理学部1号館の保存・活用の方針（素案）」の市民意見募集の結果について

1 募集期間

平成29年2月22日（水）から平成29年3月10日（金）まで

2 募集方法

- (1) 広島市ホームページへ募集記事を掲載
- (2) 広島市広報紙「ひろしま市民と市政」へ募集記事を掲載
- (3) 広島市都市整備局都市機能調整部都市機能調整担当、広島市公文書館及び広島市各区役所区政調整課に閲覧用資料を設置
- (4) 広島市市政記者クラブへ情報提供

3 募集結果

- (1) 応募数 8人
(応募方法：ホームページ4人、郵送2人、ファックス1人、電子メール1人)
- (2) 意見件数 10件
- (3) 意見の内訳

内 容	件数
ア 保存範囲に関すること	3件
イ 活用方策に関すること	7件
計	10件

4 意見への対応

区 分	件数
(1) 意見の趣旨により方針（素案）を修正するもの	—
(2) 意見の趣旨が既に方針（素案）に盛り込まれているなど、方針の修正を行わないもの又は今後の取組に当たって参考とするもの	10件

5 意見の概要と意見に対する本市の考え方

(1) 意見の趣旨により方針（素案）を修正するもの
（該当なし）

(2) 意見の趣旨が既に方針（素案）に盛り込まれているなど、方針の修正を行わないもの又は今後の取組に当たって参考とするもの

ア 保存範囲に関すること（3件）

意見の概要	本市の考え方
<p>① 耐震改修や再活用するために相当の費用がかかることから、旧理学部1号館を被爆建物として全部残すことは不可能だと思ふ。</p> <p>理学部1号館の厳かなレンガ張りの建物と玄関は、現在すでに広島大学西条キャンパスの理学部の正面にそれを模したデザインが残されていること、被爆建物は全部で86施設あることから、被爆建物として旧理学部1号館を残す必然性はない。</p> <p>一部の外壁を移設保存し、メタセコイヤ等の象徴的な樹木を一部残して、東千田公園を含めた再開発を考えた方が新しい時代にふさわしく、現実的だと思ふ。</p>	<p>広島市は、未来に向けて被爆の実相を確実に伝えていくため、できる限り被爆建物を保存・継承していくよう取り組んでおり、旧理学部1号館についても、その保存・継承に努める必要があると考えています。</p> <p>本方針の取りまとめに当たり、有識者や関係団体等による「広島大学旧理学部1号館の保存・活用に関する懇談会」を開催し、全5回に渡り、保存・活用に関する意見交換を行っています。この懇談会の意見を踏まえ、建物の保存範囲については、被爆建物の中に入り、建物の歴史や被爆の実相を感じることができるよう、「正面部分の建物は保存する。その上で、活用のための施設規模がさらに必要で、見込まれる事業費が確保できれば、保存範囲を拡げる。」ことにしています。</p> <p>最終的な保存範囲については、平成29年度に活用方策の具体化の検討を行う中で、保存範囲の絞り込みを行うよう考えています。</p>
<p>② 耐震補強をして建物を残すことは、莫大な費用が掛かること、活用を考える際に制約になることから、建物を撤去し、正面玄関付近を移設して、広島文理科大学の写真と説明を刻んだ石碑を建ててはどうか。</p>	
<p>③ 市の財政も豊かでない中、中央の時計台の部分を残し、それ以外は解体してはどうか。</p>	

イ 活用方策に関すること（7件）

意見の概要	本市の考え方
<p>① 跡地に原爆の惨禍についてより深く学べる IT 設備を完備した現代的な博物館を新設することを提案する。核兵器の歴史と世界の現状についての解説資料など、原爆の惨禍を学べる資料を常設展示するとともに、展示が難しいものは DVD 等にして、複数人用の部屋又は 1 人用のブースで閲覧できるようにするとよい。また、会議室や喫茶室を設け、建物 1 階は原爆資料館のようにして津波対策を考えた駐車場にするとよい。</p>	<p>本方針では、活用方策について、「新たな時代に向けて知の継承を図る」、「被爆の実相を後世に伝えることができる」、「跡地全体が『知の拠点』としての機能が高まる」という視点で検討を行い、「幅広い世代に門戸を開いた広島ならではの平和に関する教育・研究や交流・活動を行う場」として活用することを基本とし、複合的に「幅広い世代の人々が集い、多目的に利用できるコミュニティスペース」として活用することにしています。</p>
<p>② 図書館を基軸とした広島の顔となる平和学習の情報集積、発進の場としてもらいたい。</p>	<p>いただいた御意見については、今後、本方針を生かすべく活用方策の具体化を検討する中で、参考とさせていただきます。</p>
<p>③ 機能の組み合わせが重要だと思う。「幅広い世代」「多くの人が集い交流」「平和に関する教育・研究や交流活動行う場」といったことを実現するには、特定の機能に特化した博物館や教育機関、交流スペースといったものだけを作っても集客が難しいのではないかと。 ユースホステルやゲストハウスのような安価な宿泊施設を中核に据え、そこにアクティブラーニング形式での平和学習、異文化交流、野外カープ中継、フリーマーケット等、様々なコンテンツをつないでいくべきだと思う。</p>	<p>いただいた御意見については、今後、本方針を生かすべく活用方策の具体化を検討する中で、参考とさせていただきます。</p>
<p>④ 峠三吉、栗原貞子、原民喜等を中心に、被爆された詩人（文学者）の作品を常時展示する文学館を設けてほしい。海外から広島を訪れる多数の観光客が、被爆された詩人の翻訳に生に触れて、戦争と平和の問題について深く考えることにつながるのではないかと。さらに、日本語の原詩と、それぞれの国の言葉に翻訳された詩の朗読を流せば、心に深く刻みつけて帰ってもらえるのではないかと。</p>	<p>いただいた御意見については、今後、本方針を生かすべく活用方策の具体化を検討する中で、参考とさせていただきます。</p>
<p>⑤ 赤レンガの旧理学部 1 号館は、世界遺産になっている原爆ドームに勝るとも劣らない立派な遺産だと思う。 原爆の遺物（残された物全て）を二分して、広島平和記念資料館と旧理学部 1 号館で展示してはどうか。 原爆ドームは内部を見ることができないが、旧理学部 1 号館は修理すれば内部を見学でき、今までと違った原爆被害の体験ができるのではないかと。 東千田公園を整理して（森戸道路はそのまま）駐車場にして、第 2 の原爆公園広場としてアピールすれば、みんなに喜んでもらえると思う。</p>	<p>いただいた御意見については、今後、本方針を生かすべく活用方策の具体化を検討する中で、参考とさせていただきます。</p>

意見の概要	本市の考え方
<p>⑥ 自然科学に関する施設の設置を希望する。そこでは老若男女を問わず人々が集い、太古から宇宙まで思いを馳せる空間となって欲しい。特に子供たちが科学に対する興味を持つ入口になることを願う。</p>	<p>平成27年度に行った市民アイデア募集においては、自然史関係の博物館など様々なアイデアをいただきました。</p> <p>本方針の取りまとめに当たり、「広島大学旧理学部1号館の保存・活用に関する懇談会」において、市民アイデアの募集結果を紹介し、保存・活用に関する意見交換を行っています。この懇談会の意見を踏まえ、活用方策については、「新たな時代に向けて知の継承を図る」、「被爆の実相を後世に伝えることができる」、「跡地全体が『知の拠点』としての機能が高まる」という視点で検討を行い、「幅広い世代に門戸を開いた広島ならではの平和に関する教育・研究や交流・活動を行う場」として活用することを基本とし、複合的に「幅広い世代の人々が集い、多目的に利用できるコミュニティスペース」として活用することとしています。</p>
<p>⑦ 広島大学本部跡地に53階建てのマンションが出来ることもあり、避難場所として活用すべきと思う。</p>	<p>なお、旧理学部1号館の敷地に隣接する東千田公園は、切迫した災害の危険から逃れるための指定緊急避難場所（地震・大火）として指定され活用されています。</p>